

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103185
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザテラス西田橋
所在地	鹿児島県鹿児島市西田一丁目11番1号 (電話) 099-213-0091
自己評価作成日	令和3年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、やさしく、おだやかに」という理念を掲げ、スタッフ全員がこれを目標として一致団結する事で、理想とする介護サービスを提供することが実現できています。1日の過ごし方として、昼・夕の体操、脳トレ、レク活動を取り入れ、それを週間づける事で、認知症の進行予防・身体機能の向上を図ることができております。脳トレでは塗り絵、計算、漢字、壁絵作成等行い、レクでは野菜などを切ったり、洗ったり、食器を拭いたり等、家事動作を取り入れた活動を行っています。医療面では、法人の系列の、訪問看護ステーションと連携を図ることで、入居者様の健康管理を24時間体制でお守りしております。現在、新型コロナウイルスにより面会制限、面会禁止とご家族に会えなく寂しい思いをしていましたが、テレビ電話やメール等で情報交換を行い、喜ばれています。月2回、母体である土橋病院へ訪問診療(状態の報告)を行い、情報交換を欠かさず行っています。家庭的な雰囲気の中で本人のペースに合わせて楽しく過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体が医療機関であり、健康管理や緊急時の対応等、24時間医療連携体制が整っている。
- ・理念「ゆっくり、やさしく、おだやかに」を柱に、職員は一丸となって入居者に寄り添って支援している。
- ・町内会に加入し回覧板等で地域の情報を得たり、買い物は地域の店で対応している。
- ・コロナ感染防止の為、外出は自粛しているが、定期的な医療機関受診の帰りに自宅や神社に寄ったり工夫して、外出支援している。
- ・管理者は職員の意見や要望を聞き運営に反映させている。職員間のコミュニケーションも良い。
- ・日々の楽しみのある生活を目指し、焼き肉パーティや年末の大掃除・作品作り等を計画し、喜ばれている。
- ・入居者の力量に応じて体操や脳トレ・レクリエーション活動に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、やさしく、おだやかに」利用者様の気持ちに寄り添い、その人らしく生活できる場の提供に日々取り組んでいる。毎朝、全員で理念を唱和することで、職員全体で意識付けを行っている。	理念は食堂やフロアに掲示し、パンフレットにも掲載している。朝礼で毎日唱和している。管理者と職員は共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルスの影響で地域とのコミュニケーションが難しい状況です。	町内会に加入している。以前は地域の行事や清掃活動・ボランティアの受入れを行っていたが、コロナ感染防止の為、自粛している。職員のための商店街への買い物は継続している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	現在、新型コロナウイルスの影響で地域とのコミュニケーションが難しい状況です。認知症の理解については、定期的に勉強会を設け資料にて理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は規定通り、2ヶ月に1回の運営推進会議を実施しているが、現在は新型コロナウイルスの影響で中止している。	コロナ禍にあり、以前のように集まって開催はできないが、会議の書類を回覧し、意見は即、職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から市担当者や地域包括支援センター等と連絡を取っており、ケアサービスの取り組み等の伝達や相談等、市との連携を深める努力をしている。また、規定通り必ず、病院受診が必要な事故については、報告書を提出している。	市の担当者とは窓口に出向いたり、電話やメールを活用して、取り組み状況を伝え、相談している。市主催の研修会に参加し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	グループホームの規定通り、3ヶ月に1回、定期の職員会議で、身体拘束の研修を行うことで、基準上禁止の対象となる行為の周知に努めている。	身体拘束廃止委員会で資料を作成し、3ヶ月毎に勉強会を行っている。指針を整備し定期的に研修会も実施している。身体拘束しないケアについて、職員の共通認識を図り、言葉の拘束についても取り組んでいる。日中の玄関の施錠はしていない。外出希望者には寄り添って散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、研修の中で、世間で起きた事例などを基に、行っている。介助者が、精神面を落ちつかせたり、ストレスを溜め込まない事で、虐待を防止する事ができる事も、日頃から伝達している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は退所されているが、昨年まで、成年後見制度を利用されている方がおり、研修を行った。今後も入居者に必要性が生じた場合には、活用を視野に置いていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約時には、納得のいくように、分かりやすい言葉で説明を行っている。また、不安点や疑問点を解決できるよう十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人で、アンケートを実施し、その際に出てきた意見を真摯に受け止め対応できている。現在は面会が制限されているが、電話やお手紙等活用し、意見や要望に応えるよう努力している。	利用者からは日常の関わりの中で意見や要望を聞き、思いを把握している。家族からはアンケートを実施したり手紙・電話で対応し、家族会は開催を自粛している。ホームから施設内の利用者の生活様子を写真にして家族へ状況を報告し、安心されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、職員会議を開催し、業務の事だけでなく、職員に意見や、疑問点などを、聞き取り入れるように努めている。	毎月の職員会議で意見を聞いたり、資料を作成して全員に回覧し、要望や意見を聞いている。排泄介助についての声かけや羞恥心についての配慮・気配りについて話し合い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境を整えており、業務の見直しを定期的に行う事で、残業も無い状況である。給与に関しても、僅かながらではあるが毎年昇給がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>現在、コロナ禍で研修等にはなかなか参加できない状況ではある。法人内で、勉強会等を設けることでスキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在コロナ禍で交流する機会はない状態である。電話や資料等で情報をいただき、サービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や面談等で不安や要望等を伺い、希望に沿ったサービスを提供するように努めている。入居者によって、理解レベルは様々だが、可能な限り、意見を取り入れ実行している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、必ず面談や見学等を実施している。質問、要望、意見を取り入れ、安心してお預けできる環境づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、聞き取りし、アセスメントを行い、必要としていることに優先順位を、しっかりと見極め、その人に必要な支援を見極めることが、できている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように「ゆっくり、やさしく、おだやかに」を心掛けその人らしい生活を行えるよう支援している。職員と入居者が信頼関係を築けるよう、寄り添いコミュニケーションをはかっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の変化については、気になる事があれば電話でお伝えしている。2ヶ月に1回の広報誌の発行により、あまり様子を見に行けないご家族も、本人の状況を伝達できる環境を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で入居前に利用されていた、併設の他事業所の職員や友人に会う機会が難しくなっている。	馴染みの人や場との関係継続はコロナ禍にあり、困難になっている。馴染みの店や美容室・墓参り・リハビリ等、外出を自粛している。医療機関受診後に馴染みの場所に寄っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	可能な限り、座席には配慮している。普段の様子や、認知面をプロとして観察し、隣席同士で、和やかな空気になるよう、場のコーディネートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの、介護が困難になった場合は、むやみに切り捨てる様な事はせず、次の生活の場の提供の補助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人がどうしたいか話を聞き、要望や意向を把握できている。なるべく希望に沿った対応を行っている。	入浴や夜勤時のゆっくりしている時間に思いを聞いている。表出が困難な利用者には、日頃の表情や仕草から感じ取っている。家族へ電話等で聞く場合もあり、帰宅願望の時等、協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の情報、それに加え本人や家族からも、情報を入手し、可能な限り、本人の馴染みある暮らしを、取り戻せるよう、現状の把握に努めている。その後はモニタリングやアセスメントを通して変化する生活スタイルに対応をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態変化を見逃さないよう職員間で情報共有を行っている。できることは自己動作を促し、残存機能を維持、低下させないように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で、対象者の普段の困り事や、悩み事がないかをモニタリングできている。入居者本人や家族の意見も取り入れ、職場会議を通して介護計画を見直し作成している。	本人や家族の希望を聞き、主治医の意見を参考に看護師・介護職員等により、担当者会議を開催し介護計画を作成している。モニタリングは、3ヶ月で、見直しは6ヶ月で行っている。状況が変化した時は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>会議や、朝礼時に普段の気付きなどを話題にだし、情報を共有できている。またそれらを活用し、的確なプランを作成している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>毎月必ず、行事等を実施している。コロナ禍で外出する機会はありませんが、室内でできる活動、行事の提供を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で地域との交流が難しい状況であったが、関係性が途絶えぬように新聞を発行したり努めている。社会情勢を見ながら、感染対策をして地域活動に参加できるようにしていきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族に同意をいただき、一部の方を除いて、ほとんど大元の土橋病院をかかりつけ医としている。また、それ以外の専門機関医が必要な場合は、必ず家族と連携を図っている。</p>	<p>かかりつけ医は、ほとんど協力医療機関になっている。利用者の健康状態を月に2回報告し、指示があったらその都度受診している。歯科は訪問診療である。他科受診は家族と連携を取って対応している。結果は家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携介護加算を算定している。それにより、法人内の訪問看護ステーションと連携をとれる環境になっている。定期的に訪問してもらい、異常時は早急に連絡を行い、指示を仰いでいる。必要時には、医師の指示の元処置等も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院先の病院とすみやかに連携をとり、適切な情報交換を行っている。当施設の規約で、1ヶ月以上の入院は退所となってしまう。早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のめり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、今後の在り方については、必ず話している。ここでの、出来るサービスを説明したり、家族・可能であれば本人の意思を汲み取り反映させている。職員間でも日頃から、終末期の研修も取り入れている。	重度化や終末期に向けた指針を契約時に説明し、看取りに関して同意書を貰っている。状況が変化するにつれ、主治医・家族・職員で話し合い、本人や家族の意向を大切にして対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は、研修を行っている。またマニュアルもあり、それに沿って、対応する事ができている。緊急時対応の連絡体制や看護師への状況説明について指導することができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に災害時の対応については、実際の災害を想定し、避難訓練や研修を行っている。また手順も作成している。非常食や、日用品も備蓄がある。運営推進会議でも、災害時の協力をもとめている状況である。</p>	<p>避難訓練は消防署指導の下、年1回、自主訓練を年1回、火災・水害・地震を想定し実施している。研修も行っている。消火器・スプリンクラー・緊急通報装置の点検、避難経路・避難場所の確認等を行っている。防火設備は業者が点検している。水・米・缶づめ・レトルト食品等、施設内に3日分程度の備蓄があり、法人本部内にもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を常日頃から念頭に置き、馴れ馴れしくならないような、声かけに努めている。目上の方だという気持ちを忘れないよう、職員間でも注意できるようにしている。	月1回、勉強会を開催し、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。入浴介助・トイレ介助・入室の声掛け等、気配りしている。以前は年1回法人が実施する研修会で接遇や権利擁護等について学習していたが、コロナ感染防止の為、自粛している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の観察や、コミュニケーション、生活歴を参考に本人の気持ちを察する事ができている。うまく表現出来ない入居者については表情などを観察し、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて、1日1日を有意義に過ごしていただけるようにしている。「その人らしく」を大切にし見守りを行っている。入居者の意志や希望を確認し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	コロナ禍であまり外出が出来ないが、施設内でも入居者の主張を尊重し、身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に、好き嫌いを聞き取り、利用者様の嗜好を取り入れ、食事作りをしている。片付けなどは、こちらが促すこともあるが、入居者自ら進んで片づけをしてくださる事もある。	嗜好や形態に配慮し、食事が楽しみなものになるよう気配りしている。昼食は系列の老人保健施設より配食、施設では朝・夕食を作っている。もやしの根切りや食器拭き等、職員と一緒にしている。ひな祭り・誕生日・おせち等、楽しみな食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事の提供を行い、個々の食事摂取量・水分摂取量を日々記録し、状態把握に努めている。個々の食欲に応じて、無理のないような提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、かならず口腔ケアを行っている。拒否があるかたは、支援方法を統一することで、混乱を与えないようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン、サイクルを把握し、能力に合わせた自立支援を行っている。可能な限り、トイレでの排泄を目指している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。自分でトイレに行く利用者もいる。夜間はオムツやポータブルトイレ使用者がいる。尿意のない利用者へは数回トイレへの声かけを行うことで失禁が少なくなった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の牛乳の提供や水分摂取量の把握、記録を行っている。一人ひとりの排便の有無を日々確認し、排便なしが続くようなら、提携の看護師へ相談し指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴サービスを提供している。その日の気分や体調によって入浴したい時間帯等が変化する為、本人の意思も尊重しつつ、サービスを提供している。体調不良、入浴拒否の場合は後日に変更して対応支援をしている。	入浴は週に3回、午前中に、利用者の気分に合わせて柔軟な支援をしている。入浴を拒む時は、時間をずらしたり、日を変えて対応している。職員を変えての声掛けもしている。足浴やシャワー浴にも対応している。脱衣所の温度管理にも気配りしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムやその日の体調に合わせて、状況に応じ休息をしていただいている。訴えることが難しいご利用者様は声掛けを行い、無理のないよう対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員管理で服用している。服薬変更の際は申し送りを行い、情報を共有している。誤薬、飲み忘れないようにダブルチェックを行っている。薬の効能・副作用が記載されている容姿を毎日の記録ファイルに綴じ、すぐに目の付くところに置いており閲覧できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味・嗜好・本人像を大事にし、家事支援・レク活動を行っている。利用者様の残存機能を生かし、これまでの生活に近い場を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節を感じとれる行事は、必ず計画し実施している。以前は一緒に買い物へ行ったり、散歩や車を使用し外出を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で現在は中止している。	外出はコロナ感染防止の為、現在は自粛している。医療機関受診後に、神社等に立ち寄ることもある。時々、散歩をかねて近隣の神社や自宅へ様子を見に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全てこちらで金銭管理を行わず、ご家族や本人の希望で、自分で財布を所持している方もいる。現在、コロナ禍で一緒に買い物が出来ない為、職員が買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話をしたいという要望やご家族様からの電話も引継ぎし、支援している。また携帯電話の持ち込みにより、自身で電話のやり取りをしている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮している。生活感や季節感（壁絵等）を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。室温・湿度も考慮しエアコン・加湿器を使用している。	共用空間は広く、清潔である。室温・湿度・換気に配慮し、エアコン・加湿器を使用している。施設内が明るすぎないように、照明を調整している。季節感のある物や利用者の作品を飾り、ソファでゆっくり寛いだり畳の空間で居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設ける事で、座席に囚われることの内容工夫している。しかし、全員は座りきれないので、居室を活用することもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際は、利用者様が実際に使用していた家具や使い慣れたもの（ぬいぐるみ等）を持ち込みしていただいている。中には、ご家族様が撮られた写真を居室に飾り付け、安心して過ごしていただけるように配慮している。	エアコン・ベッド・タンス・温湿度計を設置している。家から持ち込まれた使い慣れたテレビ・家族写真・時計・仏壇・ぬいぐるみ等を置いて、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能や安全面には十分注意し、歩行動線の確保、危険物は目の届かないようなところへ保管している。共同スペースには手摺が設置されており、共同のトイレのドアにトイレマーク（方言を使用した案内板）を取付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない